

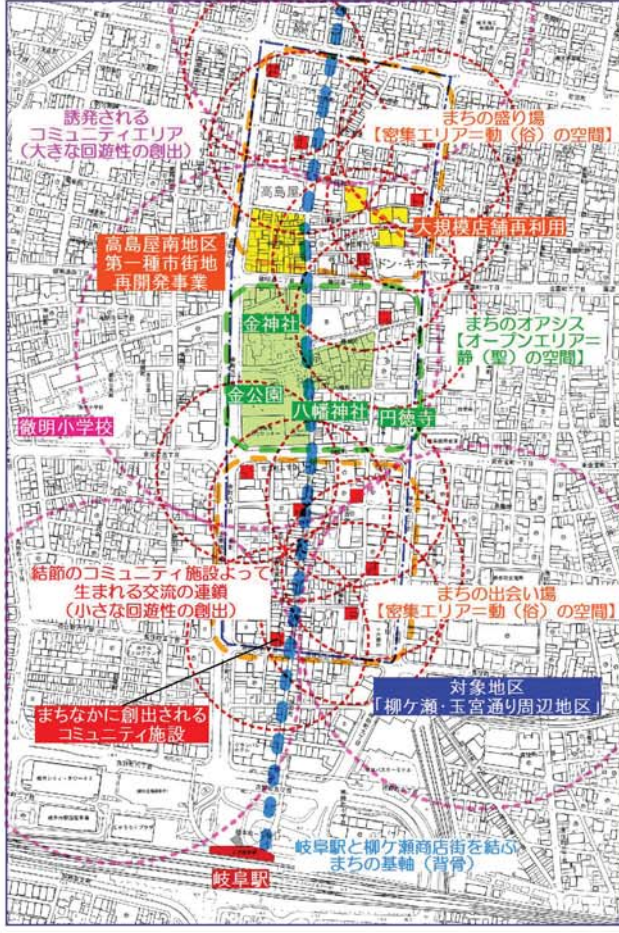
まちなかのコントラストを『演出』する

コントラスト① 小さな回遊と大きな回遊 (点から線、線から面へ)

中心市街地において、玉宮通り・コミュニティー道路・劇場通りを対象地区の基軸とし、時間の流れの中で人・活動・空間が相互に浸透し合うコミュニティーエリアを形成すると共に、新たに住宅・商業・業務・福祉・教育等、種々の空間、街区の結節点にはヒューマンスケールで身近な**コミュニティー施設**を配することで、市街地の中に様々な目印と回遊を演出し、各々のコミュニティーエリアが相互補完を行うまちづくりを行う。更に、コミュニティーエリアが連なり合っってコンパクトシティを形成し、周辺都市との連携を行うことで、広域の回遊が生まれる。まさに小さな回遊と大きな回遊が生まれることで、まちなかのコントラストを演出する。



- 生活・余暇活動の受け皿となるヒューマンスケールで身近な**コミュニティー施設**
- コミュニティリビング (居住者同士の交流・くつろぎ)
 - コミュニティカフェ (休憩する、お茶をする等)
 - コミュニティライブラリー (持ち寄り図書室等)
 - コミュニティキッチン・ダイニング (料理教室、食事会等)
 - コミュニティスタジオ (音楽教室、ライブイベントの開催等)
 - コミュニティ工房、コミュニティアトリエ (工芸品づくり教室、裁縫教室等)
 - コミュニティガーデン (野菜、花づくり教室等)
 - コミュニティショップ (伝統工芸品や地元特産品の販売等)
 - コミュニティギャラリー (作品の展示、イベント情報等の発信等)
 - コミュニティデザインセンター (CDC) (まちづくりワークショップの開催等)
 - 協働オフィス (行政や企業同士、市民の協働の場づくり)
 - キッズルーム、学童保育 (子育て支援の受け皿づくり)
 - ティーサービスセンター (高齢者福祉支援の受け皿づくり)



人々の暮らしがみえる豊かなまちなかの風景(生活環境)は、個々の想い・つぶやきから発し、他者(人々・動物・自然など)と共生しながら協同して紡ぎ出される活動や空間によって形づけられます。しかし、都市化が進む現代社会において開かれた公・協の活動は閉じられた個(孤)単位での活動へと変化し、車社会や情報化社会の到来は地域社会やコミュニティでの活動より家族や個(孤)単位での活動を促進させました。

本計画では、岐阜の中心市街地である柳ヶ瀬エリアをベースに、人々の暮らしがみえるまちなかのRe・Designとして、『まちなかのコントラスト』(コミュニティーエリアによるまちなかの回遊性、エリアによるアイデンティティ、ハレとケの風景—静・聖と動・俗)を演出し、インナーシティ問題及びまちなか居住への対応として「コーポラティブ方式による協同・協調再建」を行い、参加と協同(働)による居住者参加型の住まいづくりと、まちづくりとしての種々のコミュニティー空間を生み出し『まちなかの居住と賑わい』を創出し、共に生きる・活きる暮らしを実現します。加えて、柳ヶ瀬エリアで問題となっている空き店舗の増加、中でも大規模空き店舗においてはコンバージョン(用途変更)を行い、専門学校や体験型教育・学習空間、若者が楽しめるアミューズメント空間、起業家のための商業・業務空間、子どもや高齢者・障がい者のための福祉・就労空間を居住空間と共にしつらえ、さらに柳ヶ瀬商店街のアーケードについても人々の暮らし・活動がみえるRe・Designを行います。

——人・活動・空間・時間とコミュニティが相互に浸透し、育み合う関係性を構築することで点から線へ、線から面へ循環し合う空間を構成し、品格を創出しつつ、賑わいに溢れ、誇りや愛着の持てるまちづくり・まち育てを岐阜市「柳ヶ瀬・玉宮通り周辺地区」で提案します。

自分のまちを「知る」

- 課題地が抱える問題点
 - 商業等の衰退・空洞化 (空き店舗、空きオフィスの増加)
 - 利用される商業施設の固定化
 - 中心市街地全体の回遊性の欠如
 - 高齢者・障がい者への対応不足
 - 緑地・子どもの遊び空間の不足
 - 看板、放置自転車等による景観の悪化
- 柳ヶ瀬地区が抱える課題
 - 歩行者数・購買力の低下による賑わいの欠如
 - 建物やアーケードの老朽化
 - 大規模空き店舗・空きビル・遊休地の未利用
- 金公園周辺が抱える課題
 - 青空駐車場、空き地の未活用
- 玉宮通り地区が抱える課題
 - 玉宮通りの線形動線による回遊性の欠如
 - 駐車場・低未利用地の増加

まちのタカラモノを「見(魅)つける」

- 伝統産業
 - 伝統産業 (岐阜提灯、岐阜和傘、岐阜洗うちわ、岐阜油紙、のぼり紙、美濃筒引き木染め、手刷り染染め、美濃焼など)
 - 特産品 (富有柿、枝豆、佐波いちご、守口たいこん、鮎、柿羊羹、鮎菓子)
 - その他・伝統技術など (織物、繊維産業)
- 地域資源
 - 人的資源 (経験や知恵を活かす、伝統技術を伝える)
 - エネルギー資源
 - 空間資源・材料資源 (空きビル、低未利用地(含駐車場)、神社仏閣など)
- 緑地・水辺空間等のエコロジカルな要素

自分のまちを「育む」

- まちなか居住の促進と暮らしのサポート
 - コーポラティブ方式による協同・協調再建による生活・居住空間づくり
 - 大規模店舗跡地・低未利用地の活用と活気・盛り場の再生
 - 協同・協調再建による生活・暮らしの相互補完とコミュニティー空間づくり
- 柳ヶ瀬本通りを軸とした人が主人公のまち育て
 - 老朽化したアーケードの再生と商店街・地域居住者・来街者一体の舞台づくり
- 中心市街地の回遊性の向上と良好な景観形成
 - コミュニティーエリアモデルの構築・実践とアイデンティティの創出
- 低未利用地を利用した新しい動線と相互扶助のまちづくり
 - 環境共生手法を用いた相互に支えあう人・活動・空間づくり

コントラスト② 密集エリアとオープンエリア (静・聖と動・俗)

柳ヶ瀬エリアは商店街として古い歴史ある県内随一の繁華街として賑わいの拠点であり、玉宮エリアはファッションや人々の交流の場であることから、これら2つのエリアにおいて新しい商業・業務等の空間を密にしつらえる。対照的に、金公園エリアにおいては、まちなかのオアシス空間として豊かな自然を感じられるオープンスペースを配すると共に、ポケットパーク等の緑地空間をしつらえる。静と動(聖と俗)な空間をしつらえることで、まちなかのコントラストを演出すると共に、人々の活動や暮らしに品格や抑揚を与え、それぞれのエリアにアイデンティティもたらす。

柳ヶ瀬エリアのアイデンティティ

before

- 空きビルの未利用
- アーケードによる建物ファサードの不連続性や風の遮断
- 既存店舗の間の駐輪場

after

- 空きビルのコンバージョン(一部改修)によるまちなか居住と生活空間の創出
- 新しいアーケードによる遮風と採光の確保
- 駐輪場の整備

金公園エリアのアイデンティティ

before

- 寺社等の聖なる空間と、商業・業務空間の入り混じる空間の不統一性
- 賑わいが欠如した公園

after

- 寺社等を活かしたオープンスペースづくり
- まちなかのオアシス空間の創出
- 商業・業務空間の集約

玉宮エリアのアイデンティティ

before

- 玉宮通りに集中する商業・業務
- 寺社等の聖なる空間と、商業・業務空間の入り混じる空間の不統一性
- 賑わいが欠如した公園

after

- 寺社等を活かしたオープンスペースづくり
- まちなかのオアシス空間の創出
- 商業・業務空間の集約

コントラスト③ ハレとケ (非日常と日常の風景)

日常(ケ)時と非日常(ハレ)において、まちに溢れ出す人の活動は異なり、まちの風景の彩りにコントラストを与える。★提案するイベント

日常(ケ)の風景

子どもたちの遊び空間
子育て世代の交流の場

街く人等の休憩空間

日用品等の生活必需品購入等(暮らしの基盤となる商店街)

劇場通り

まちなかのオアシス(静)

まちなかの盛り場(動)

非日常(ハレ)の風景

骨董市等の開催

金神社の祭り(新嘗祭等)

朝市・百円市、柳ヶ瀬ガールズコレクション(YGC)の開催

劇場通り

まちなかのオアシス(聖)

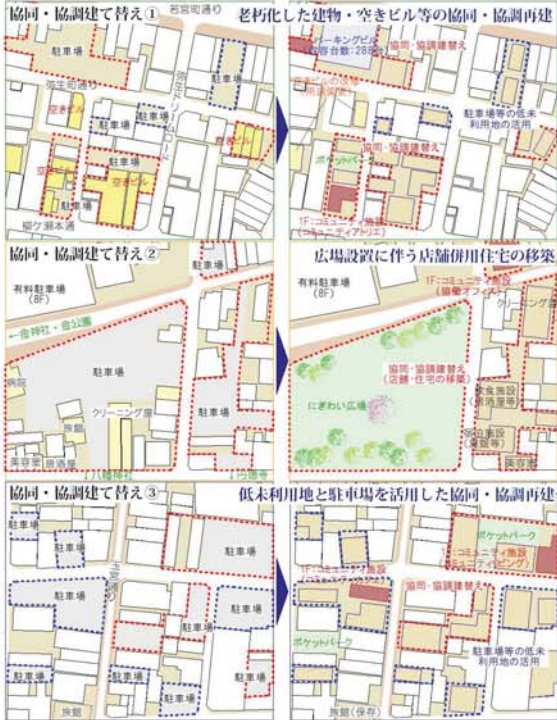
まちなかの盛り場(俗)

まちなかの居住と賑わいを『創出』する

居住と賑わい① 居住者参加型の「住まい」+「商い」+「α」

本計画では特に柳ヶ瀬エリアにおいて居住者、営業者(商業・事業関係者)と地権者が主となり、コーポラティブ方式(居住者参加型の住まいづくり[含グループリビング・グループホーム])を採り入れた協同・協調再建を実施する。中心市街地の定住人口を確保・増加させるための手法として職住近接の店舗・事業所併用コーポラティブ住宅を計画し、生活支援施設・空間や交流支援施設を点在させ、利便性・快適性を高めると共に居住者、地域住民、来街者等の参加と協同(働)による種々の活動の受け皿として機能させ、良好なコミュニティの醸成に寄与する空間を創出する。

- コーポラティブ方式のメリット**
- (i) **協同社会性**
従前居住者と新規居住者が企画・計画段階からよく知り合った隣人・知人となり、相互扶助のある良好なコミュニティが創られ、自主管理がうまく行われる。
 - (ii) **集住創造性**
皆でものを一緒に創り上げていく喜びが味わえ、集まらなければできない共用(コミュニティ)施設・空間や活動なども創り出すことができる。
 - (iii) **自己実現性**
企画や全体計画の段階から全員が参加することで、入居者・営業者・地権者の各住戸や店舗には個別の希望が実現される。
 - (iv) **納得づくりの価格**
費用は全て公開されるので納得できるコストで事業が進められると共に、居住者参加型のため宣伝経費等が最小限に抑えられる。



居住と賑わい② 柳ヶ瀬の大規模店舗・空きビルの再利用 (地域資源のコンバージョン)

～旧長崎屋の再生～

今 大型空き店舗として、未利用

昔 衣料スーパーの老舗として発展

提案 体験型の教育・学習施設+居住施設として再構築

- 低層階: 体験型の学習空間(裁縫教室・料理教室等)、専門学校(服飾デザイン科・専門学校料理科等)
- 中層階: 住居(グループホームや専門学生用の学生寮等を含む)
- 高層階: 低層階で作った作品の販売やギャラリー展示、料理教室で作った料理を愉しむ飲食空間

～旧センサビルの再生～

今 大型空き店舗として、未利用

昔 前身は八百屋(1920年頃)、1980年代は、10代20代若者の人気のスポーツとして発展

提案 子ども・高齢者・障がい者の空間として再利用

- 低層階: キッズルームや高齢者・障がい者の福祉・就労空間、若者が楽しめるアミューズメント空間(起業家のためのテナント含む)
- 中層階: 住居(含グループリビング)、起業家提供の低賃賃住宅

地上コミュニティガーデン

自然エネルギーの活用
屋上コミュニティガーデン

最先端のチャリー飲食施設

グループホーム
(認知症高齢者のための集合住宅)

専門学校(服飾科等)

専門学生寮

高層階: 住居

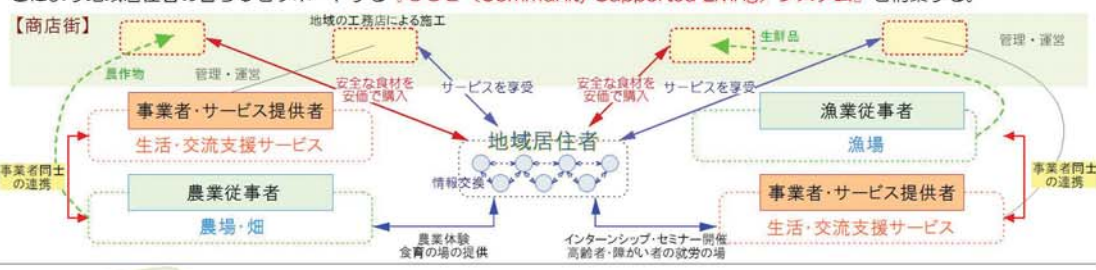
低層階: 住居

中層階: 住居

高層階: 住居

一部はペデスチアンデッキとして開放

CSL(Community Supported Living)システムの運営: まちなかに生まれる『地産地消』型ビジネスモデル



居住と賑わい③ 柳ヶ瀬本通りを軸としたまちなかの再活性化

柳ヶ瀬本通りを中心に、柳ヶ瀬商店街のアイデンティティである老朽化したアーケードの再生を行う。新しくデザインするアーケードは従来同様、雨が降り込まないデザインにすると共に、通風・採光を取り入れ、空中デッキをしつらえる。建物のファサードを見せるデザインにすることで、商店の個性を感じる商店街として生まれ変わる。また、美濃の紙系を紡ぎだるようなデザインモチーフの駐車場ビルを新しくしつらえ、まちなかのアイデンティティの1要素にすると共に従来の駐車台数を超える台数の駐車を可能にしている。

取容台数: 288台
高さ: 52.5m

ソーラーパネル
屋上緑地
屋上ビオトープ

住居
住居
住居

商業・業務空間(起業家専用テナント)

既存店舗(洋服店)

店舗(コンビニ、診療所等)

共用スペース(抜け空)

店舗(コンビニ、診療所等)

住居

住居

住居

商業・業務施設

パーキングタワー

柳ヶ瀬本通り

新規コーポラティブ住宅(店舗併用)

実現化方策 ~起業支援とネットワーク化によるまち育て事業スキーム~

居住者が減少し、商売が成り立たなくなった商店街、中心市街地の都市軸として回遊性が低下した対象地において、歩いて暮らせるまちづくりを実践するため、「柳ヶ瀬まち育て協議会」を発足し、新しいコミュニティビジネスを創出・発展させることでまちなかの再活性化を促す。

